

J・A・C  
(第 7 号)

## 千葉支部だより

発行者 篠崎仁  
編集者 結城純一

## 日本山岳会千葉支部第2回通常総会報告



2009年5月16日(土)午後1時半より、京葉銀行文化プラザにおいて、第二回千葉支部通常総会を開催しました。議案の審議に先立ち篠崎支部長より開会の挨拶がありました。司会担当の諏訪より、3月末日での有権会員数109名の中で、本総会出席者は下記の24名、委任状による出席62名、合計出席人数86名であり、規約に定める定足数(会員数の三分之一、37名)を充たし本総会が有効に成立したことを確認しました。その上で、規約第8条に基づき、支部長篠崎仁が議長となり、別紙の各議案を逐次検討いたしました。いずれも原案通り満場一致で可決されました。今年度の支部活動については、詳細は別紙の2008年度事業活動報告書を参照願いますが、

主な活動の成果としましては、①会友制度の新設により会友9名が千葉支部に入会となりました。また、②千葉支部のホームページを立ち上げ、日本山岳会本部のホームページにリンクいたしました。

総会後の定例の記念講演会は千葉支部副支部長の藤井理事が演題「私の山登り」と題して、学生時代から今日までのまさに峻厳な岩との壮絶な格闘とも思われる半生記をパソコンからの豊富な写真等をプロジェクターを利用してスクリーンに映し出し、参加者の感嘆の声を誘っておりました。会場の皆さんも改めて登行意欲をかきたてられた実に有意義な講演会となりました。その後の懇親会は例年通り、皆さん多いに飲み時を忘れて楽しく歓談いたしました。

総会出席者名(敬称略、順不同);青木一夫、岩尾富士夫、石岡慎介、遠藤将一、岡野修、小沢けい子、桜田直克、佐藤明夫、塩澤厚、篠崎仁、諏訪吉春、高田春男、高橋正彦、津田麗子、豊倉さと子、行方正幸、芳賀孝郎、藤井正善、三木雄三、南井英弘、本木總子、柳下忠義、山口文嗣、渡邊信一、以上24名

(諏訪吉春)

## 2009年5月16日通常総会支部長あいさつ

2007年6月24日に設立総会を開催、今年で2周年を迎えることができました。これも、ひとえにこの総会にご出席のみな様をはじめ支部に入会いただいた会員の方々のご支援の賜と厚く御礼申し上げます。「新しい出会いの場をつくりクラブライフの向上に寄与する」ことを支部設立の理念とし、まずは支部会員同士の親睦を第一義として活動を行ってきました。2008年度は、千葉の里山山行をはじめとして、懇親会、講演会、北海道支部との大雪山交流山行、千葉・茨城・栃木・三支部懇談会(千葉で開催)などが主な事業です。

今年度はこれらの活動に加え、房総分水嶺の踏査に着手します。茨城支部星埜由尚支部長(元国土地理院長)にご指導を頂き分水嶺を確定したうえ、着手します。支部会員全員参加の事業とし、さらには会員以外の一般参加のコースも考えます。あまり急がずにゆっくりと楽しみたいと思います。JACは、いま新しい公益法人改革の渦中にありますが、千葉支部としても何がベストか一緒に考えていく必要があります。

さらに楽しく有意義な支部活動を展開していくために会員のみな様の積極的なご支援、提言を期待しております。(篠崎仁)

## 千葉県最高峰の愛宕山登山

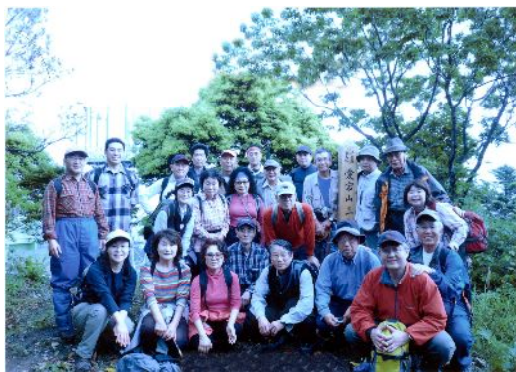
5月17日の日曜日は雨と天気予報で言っていた通り、前夜から雨音が大きかったが、「雨天決行」としっかり書いてあったので千葉三越前に出かける。しかし、不思議なことに家を出る時から用意の傘はささずにいる。皆雨具だけはしっかり持って7:55には全員集合、予定通りバスがスタートする。愛宕山は防衛省管轄なのでなかなか登る機会がなく、支部長と南井さんは10年も前から「いつか登ろう」と話していたという。山の話だけでなく、ラテン語やギリシャ語の話になった時、バッハを原語で歌う人が何人かいて、話題は尽きない。今日

は楽しい話がたくさん聞けそう。市原SAでちょっと休憩し、鋸南保田で高速道路を下りると、右に「富山」、左に「伊予が岳」を見るようになる。前に登ったので親しみが湧く。もし千葉支部に入っていなかったら、多分登ることがなかったのではないかと思われる。周囲はもう初夏の風情で、柔らかい緑に少しずつしっかりした緑の常緑樹が混じり、房総らしい感じがする。9:45あたりがぐっと開け開放的になったと思ったら、峰岡牧場だった。「日本酪農発祥の地」の看板に、同じ千葉県に住んでいても何も知らなかったことに驚くばかり。

徳川時代に白牛をインドから輸入してはじめたとのことで、その牛は背中に小さなこぶのようなものがあり、絵では山羊との中間のような感じ。

9:45 出発。アスファルトのだらだらした道を登るが、あまりきつくないせいかわいらしい話に笑っているうちに 10:44 ゲートに到着、10 分程で[航空自衛隊嶺岡山分屯基地]の入り口に着き、身分証明のチェックを一人ずつ受ける。その間にも自衛官にいろいろな質問が飛び、みんな興味しんしんのような様子。彼らは、重要なことは機密事項なのかははっきり答えず、しっかり教育されていると感心。そこからは先頭と最後尾に隊員が着いてくる。

もう小高い森のような頂上がすぐで、途中木の間からは特徴のある御殿山の2つのピークが見える。階段を登ると「千葉県最高峰・愛宕山三角点・408.2M」の頂上である。11:10 着。



各県最高峰で最も低い  
千葉県最高峰登頂記念



愛宕山408.2m

登頂日： 21.5.17

あなたは、今年度

033 番目の登山者です。

いくつものアンテナが立ち、太平洋も遠くに見え、まわりを見渡すとさすが嶺岡山系の盟主と言われるだけあって周囲を見下ろしている。愛宕山にこんなに大勢で来るのは珍しいと言われ、記念のカードを No 28 からもらう。4月からまだそれ位しか来ていないそうだ。50分ほどの下りで、牧場に戻り昼食。絞った牛乳はあまり濃すぎず甘みがあり本当においしい。13:30 大山千枚田に移動。見ていると童謡「ふるさと」が出てきそうな日本の風景そのもので、またまた千葉ってほんとにいろいろある所なのだと思う。そこから30分ほど歩き14:30「大山不動尊」へ。またまた質問せめて神仏習合寺であることがわかり、建物の特徴を納得する。たくさんの人と話、たくさんを聞き、しかも雨が降らずに楽しく、有意義なそして快い一日でした。企画して下さったかたは防衛省に出向き、許可を取ってくださったそうです。感謝します。  
(坂上光恵)

## 新緑の上高地散策

期 日:21年5月30日(土)~31日(日)

場 所:上高地

参加者:高橋琢子、金子有美子、櫻田直克、竹島正義、三木雄三、吹野義憲、山口文嗣  
山口三千子、門倉純子、後藤三男、渡邊信一

昨年10月紅葉の上高地に満喫した全員の「新緑の頃にもう一度来たい」という要望に再度企画され、今回も昨年同様、山研

に宿泊し2日にわたって上高地周辺の散策を楽しんだ。5月30日 12時30分予定通り大正池ホテル前に集合。松本駅ではとき

おり青空をのぞかせていた天気は急に小雨が降りだしたが、昼食後さっそく上高地河童橋をめざして梓川流域を散策。ときどき雲の切れ間から見える焼岳や穂高連峰の残雪(雲で稜線まではみえないが)がきれいだ。また川岸の木々の緑もあざやかに梓川の清流と共に目を楽しませてくれる。天気がよければ途中の田代湿原からの穂高連峰は素晴らしい景観なのだが、あいにく今は穂高の山々は全く見えず、湿原とカラマツの緑の素晴らしさで我慢する。

笹にかこまれた遊歩道を梓川に沿って 15分位歩くと田代橋にでる。田代橋を渡って少し歩くとウェストン広場に出る。山側の岸壁に、日本のアルプス登山の開拓者 ウォルター・ウェストン卿の丸いレリーフがはめこまれている。ウェストン広場から 15分位歩いて河童橋に着く。この頃雨もこやみになり、雲の切れ間に残雪の穂高連峰や岳沢が見えてきた。シャッターチャンスとばかり写真を撮る。この後小梨平まで足をのぼし、上高地ビジターセンターに寄り、上高地周辺の動植物を勉強する。小梨平から河童橋迄の間には、いたる所にズミ(コナシ)の樹がありかわいらしい小さな花をいっぱい咲かせている。



4時に山研着、先行していた渡辺さん等とも合流、全員がそろい、入浴後6時より楽しい夕食の集いとなった。桜田幹事の司会で各自3分間の自己紹介 後藤先生の持別

調達「氷見産のアジ」のタタキにしたづつみ、各自持参の銘酒の品評会などで大いにもりあがった。

31日 この日は自由行動だが朝から雨。この為岳沢に登る予定だったが変更し、昨年同様三木さんの案内で明神橋まで往復することになった。山研より梓川右岸の自然探勝路に行く、ほの暗い樹林帯だが川岸のカラマツの新緑のあざやかさ、道端にはニリンソウが各所に咲いていた。マイヅルソウも見かけたが花はまだだ。またダケカンバとモミが合体した巨木、根っこが複雑にカラミあっている樹々など自然景観は素晴らしい。雨は降ったりやんだり、やんで雲が切れると右正面間近に六百山が、下流方向に焼岳も見える。約1時間弱で穂高神社奥宮に着く。嘉門次小屋で囲炉裏端で焼いた名物のイワナを食べ、戻ることにする。復路は明神の吊り構を渡り梓川の左岸に行く。ときおりガスの切れ間から明神岳の岸壁が圧倒的な迫力をもって迫ってくる。道は歩きやすいが川岸の眺望は余りよくない、右岸のほうが樹林の最観も素晴らしい。約45分で河童橋に無事到着。山研で管理人さんにお世話になったお礼を言い解散となった。帰路松本駅で時間があつたので山口さんの30数年に及ぶなじみの蕎麦屋で信州のそばと銘酒で反省会。

今回も昨年秋と同様天候に恵まれず、雨中の散策となったが、それはそれで風情があると皆は言っていたがやっぱり山は晴れた方が素晴らしい。誰なのだ雨男、雨女は! 私かな?

(竹島正義)

## 伊那富士

地図を広げると、よく分かる。西へと向かう中央自動車道は、諏訪湖をかすめた岡谷あたりで大きく向きを南へと変える。

しばらく走ると右手に屏風を立てたような中央アルプスが迫力をもって近づいてくる。残雪の山を描きたい、という友人に付き合っって伊那地方の山を歩いたのは4月下旬。山里ではハナモモ、ヤマブキ、ツツジがいっせいに咲いて、まるで絵に描いた桃源郷のようだった。長野県駒ヶ根市と長谷村にまたがる伊那山脈の戸倉山に登った。別名「伊那富士」。標高はたかだか1700mに少し足りない山。最近流行のアラフォーならぬ「アラ還(還暦)にはお手軽な山」と友人たちもはしゃいでいた。

足下にはスマレやヒトリシズカ。アカマツ林にミツバツツジの紫色が浮き出た。黄色く団子のような花をつけた低木はクロモジ。失礼して小枝を拝借。口に含むと独特の香気が広がった。爪楊枝の材料だ。

元気に歩き出したものの、なかなかの急登にすっかり息が上がってしまい、途中の「金明水」というわき水が実にうまかった。不摂生に日頃の運動不足。メタボな体形がうらめしく、真剣に減量を考えた。がんばって歩き、不動明王や摩利支天のある山頂に到着した。

天竜川の向こうに中央、その奥に北。振り返れば南の巨人たち。小さいながらも楽しい山旅だった。(三木雄三)

## 麻綿原高原・天拝園のアジサイハイキング



日 時 2009年7月4日(土)

集合場所 JR外房線安房小湊駅

集合時間 午前10時10分

電車時間 [行き] 千葉駅8時17分・・・安房小湊10時08分

[帰り] 安房天津駅17時01分・・・茂原駅18時14分・・・千葉駅18時46分

歩行時間 3時間35分

予定コース 安房小湊駅・・・内浦山県民の森・・・麻綿原入口・・・麻綿原天拝園・・・麻綿原入口・・・清澄寺バス停・・・安房天津駅

今回のコースは自由参加としますので当日安房小湊駅に集合して下さい。

集合時間に遅れた場合は出発しますので集合時間は厳守です。

アジサイの花が主題ですので原則として雨天決行です。

ただし大雨でしたら中止します。当日強雨の場合は午前7時まで幹事の櫻田へ電話して下さい。

自由参加ですが管理把握のため参加申込みを前日まで受付しますので下記の連絡方法でお願い致します。

申込み先 櫻田 直克

## 初夏の日光山行



芳賀孝郎さんのご配慮で学習院日光光徳小屋に泊めていただき、奥日光の山を歩きます。

日 程：7月25日（土）～7月26日（日）

コース：A 男体山（太郎山も検討中）（健脚向き）

B 切込・刈込湖一日光湯元ハイキング

人 数：申し込み先着20名

小屋代は1泊5,000円で事前に大学に払い込みます。小屋は自炊なので、夕食・朝食は買い出しの上別途徴収いたします。参加者に役割の分担をお願いします。26日の昼食は行動食として各自で用意してください。

申し込み期限：6月30日（但し20名に達した時点で締め切ります。）

詳細は申込者に追って連絡します。

担当：篠崎、芳賀、豊倉

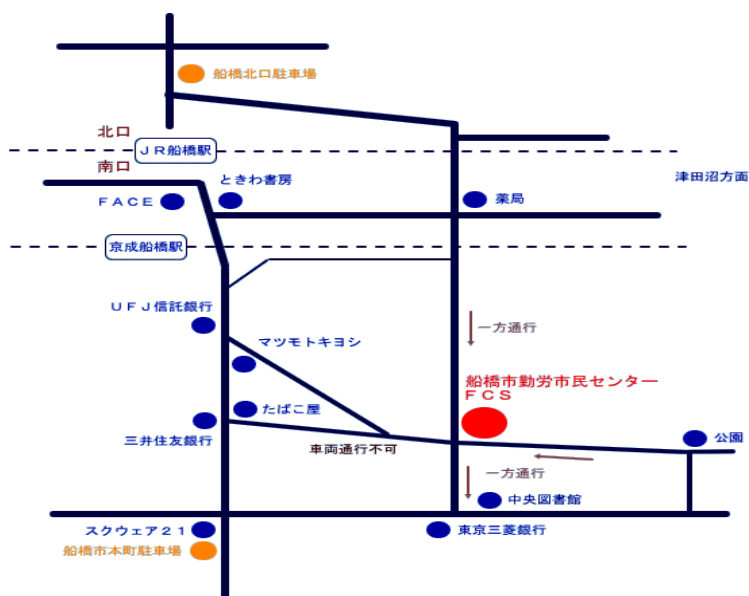
申込先：豊倉さと子

## 羽田栄治先生の山岳映画上映と講演会

日 時 2009年9月27日（日）

場 所 船橋市勤労市民センター  
 船橋市本町4-19-6 TEL (047) 425-2551  
 開 演 午後1時00分より3時間の予定  
 上映映画 「チョゴリザ花嫁の峰」 1959年 カラコルム遠征隊記録  
 「ナンダコット征服」1936年 日本初のヒマラヤ遠征 立教大学遠征記録  
 羽田先生の講演

日本山岳会千葉支部主催で日本山岳会々員の羽田栄治先生をお招きしての講演会を行います。羽田氏は1927年、東京都に生まれの82才。山への出会いは幼年時代両親の古里である福島県郡山市で夏休み過ごし山好きの祖父に連れられて会津磐梯山登ったのが山への出会いでした。また写真は当時の小西六（コニカの前身）のパーレットを買ってもらったのが写真との最初の出会いでした。中学、大学では山岳部に籍を置いていました。戦後は「日本山嶺倶楽部」を作り『谷川岳研究』など多くの山岳著書を残しています。弁護士の円山雅也は氏の開成中学時代の山岳部の先輩でよき友だそうです。ニュース映画社勤務時は報道カメラマンとして取材活動。その一方ではネパール・ヒマラヤ登山の記録をはじめ数多くの山岳映像をてがげました。その他写真展、出版、執筆など多数あります。山では、企業会社の上下関係もないし、身分や肩書きもない。人間同士裸の付き合いできるのが、一番楽しいとっておられます。現在は山岳写真家・山岳映像研究者としてまた、日本山岳会の役員、日本山岳写真協会会長、日本山岳会資料映像会委員長、アルパイン・フォトビデオクラブ会長などの要職をこなし、いまま現役でお元気にご活躍されております。問合せ先：結城純一



## 第25回全国支部懇談会の案内

福島支部より下記の通り全国支部懇談会の案内が届きました。磐梯山、猫魔ヶ岳登山など盛りだくさんの行事が企画されています。ぜひご参加ください。支部でとりまとめて申し込みをいたしますので下記宛ご連絡をお願いします。

連絡先：豊倉さと子

・支部懇談会要項

期日 2009年10月25(日)～26日

場所 ホテル リステル猪苗代

日程 25日 記念講演、懇親会

26日 記念行事 A 磐梯山登山、B 猫魔ヶ岳登山、C 中津川溪谷探勝

懇談会の詳細については、福島支部事務局八巻和男さん宛直接ご照会ください。

Tel.024-535-1059

## 千葉港納涼船&生ビール・ジュース飲み放題クルージング

日時:2009年8月22日(土)

場所:千葉市中央区中央港

時間:午後6時30分～午後8時(90分)

交通:JR京葉線・千葉都市モノレール駅千葉みなと駅下車10分

費用:5000円(乗船料・飲み代含む3900円、つまみ、その他)

参加締切日:2009年7月15日

申込み先:櫻田

結城

例年開催しています夏のビールパーティーですが、今回は趣向をかえ船上で夜景を見ながらのナイトクルージングでビールやジュースを飲みながら納涼プランです。

コースは千葉港を出港し、幕張メッセ沖から市原沖を周遊します。コースは当日の状況や天候にて変更する場合があります。使用する船はあすなろ号で定員150名の船です。15名以上ですと団体割引で1割料金が安くなります。普段は見られない千葉港の夜景と浜風に吹かれ癒され見ませんか。皆様の参加をお待ちしています。当日雨天でも実行します。船内・一部屋根がついていますので雨が降っても大丈夫です。風雨が強い場合は櫻田・結城に問合せ下さい。

**注) 8月22日当日にキャンセル場合は、乗船料金を負担していただきます。また当日連絡なく不参加の場合は費用全額をご負担いただきますのであらかじめご了承ください。**

### ● 編集後記

先日 町内会の掃除に参加をした。うちの町内はきれいだから、ゴミなんて少ないだろうと思ったら、見えない所に沢山のごみ！山でも自分のゴミだけを持って帰るのではなく 他人の出したゴミも気がついたら持って帰る事を心がけようと思った。一人一人が他の人のゴミも持って下りれば、少しずつだけど山はきれいになるだろう。山を汚すのは簡単だが元に戻す事は大変である。 (結城 純一)